

2009年11月



すぐ前が松江城

出雲大社は遠かった

松江の会場風景

松江の会場風景



2009年11月6日中国新聞



島根県知事も見学



木下徹さんの弾き語り

山陰中央新報

過労うつ病で自死（自殺）した人や遺族の思いを写真と手記で伝えるパネル展。私の中で生きていたあなた（NPO・働く者のメンタルヘルス相談室主催）が6日、松江市殿町の県民会館で始まった。文字を通して伝わる遺族の悲しみや自死者の叫びに、来場者が見入っている。8日まで。入場無料。

「現状に耐えられなくなり、生きていくことがつらくなったので、一足先にあの世に行きます。」鳥取県江府町の遺族、足立昇さん(59)は8年前に自死した息子(当時20)の遺書と写真を初めて出した。

遺書には一言も触れられ

自死者の遺書、日記、詩…

松江でパネル展始まる

親父よく頑張ったなと、涙にまみれていた。息子は一生懸命が消えない」という。は？人組から恐喝を受け、号を出していた。気付いたらやれなかった後悔の念が、息子の遺書に込められていた。家族の反対を押し切って、出展を決意した。今年、同じ遺族が集う自助グループに参加し、仲間から力をもらったのがきっかけだった。展示パネルは80点。大きくなら博士になったタイムマシンをつくり、お父さんが死ぬ前日に行って『仕事に行ったらあかんで』というや」とう父親を亡くした坊やの詩や自死者の日記、遺書が並ぶ。来場した松江市の主婦(59)は「(父を)死に追いつめてしまう社会とは、何だろう」と投げ掛けた。

息子の遺書や写真で構成したパネルの前で、残された遺族の思いを話す足立昇さん(江府町、松江市殿町、県民会館)

2009年11月7日山陰中央新報